

キャリアパス支援講演会

第11回育薬・創薬研究センター教育フォーラム

ノーベル賞の薬

イベルメクチンを妊婦や子供に届けるために
～女性薬剤師が研究者となり夢の実現へ～

講師

小茂田 昌代 先生

東京理科大学薬学部 教授



日時

2020年 1 月 28 日(火) 15:00 - 16:30

会場

岐阜薬科大学本部 第二講義室

イベルメクチンは大村智先生が伊豆の土壌から発見し、2億人を河川盲目症から救ったことで、ノーベル賞につながった薬である。イベルメクチンは寄生虫感染症である疥癬やアタマジラミ症にも効果を発揮する。疥癬とはヒゼンダニが皮膚に寄生して発症し、集団発生となる場合が多く、国内において年間8万人以上、全世界においては年間約3億人の患者が存在する。疥癬治療には内服薬としてイベルメクチンが使用されてきたが、イベルメクチンは内服薬であるため、時に全身的な副作用として皮膚や肝臓、血液障害が報告されており、安全性の面から妊婦や授乳婦、体重15kg(約4歳)未満の小児には使用できない。そこで、簡便で安全にイベルメクチンを使用する方法として「イベルメクチンのお風呂」を考案し、臨床試験を実施した。また、日本ではピレスロイド系の薬が効かないアタマジラミ症が増えており、海外ではイベルメクチン外用剤が高い効果を発揮していた。そこで、関連団体に働きかけを行い、厚生労働省を動かして日本への開発にこぎつけた。イベルメクチンの恩恵に日本人が最大限受けられるための女性研究者の戦いを紹介する。